昭和43年度

調布市立図書館の活動報告

調布市立図書館

昭和４３年度調布市立図書館の活動報告

調布市立中央図書館

1. はしがき

昭和４２年度の活動報告に引き続いて、昭和４３年度１ケ年の活動の総括をおこなう。

昭和４２年度が図書館活動の基礎固めの年であったとすれば、４３年度は活動発展への第一歩を踏み出した年といえる。昭和４１年及び４２年度は主としてその活動のエネルギーを館内の整備に用いてきたが、４３年度においては館外活動への足がかりをつかみ、館内・館外活動を併行して進めた。

特に既定の予算では活動に支障をきたすので、読書推進協議会などの援助をうけて、小学生３年生に対する読書の動機づけ指導、都立日比谷図書館の援助による地域文庫への貸出し、株式会社ホルプ（出版社）の援助による地域講演会、各種読書会の組織活動、日本子どもの本研究会及び日本児童文学者協会の後援による「子どもの本の選び方、与え方講座」など多角的な活動を実施した。

公共図書館は、市民に対して何を為すべきか、また何を為すことができるかという問いは、常にくり返し問われ続けなければならない。

公共図書館をとりまく現状は決して生易しいものではない。地方財政の現状も好ましくない。図書館活動に対する理解度も低い。長い間の図書館活動の不振は、市民図書館として図書館が市民の必需物となることをさまたげてきた。

いま図書館が地域にあって、本当の活動を展開しようとすれば、多くの障壁をのりこえて進まなければならない。而も、図書館が一方では市民に与えられなければならない側面をもつが、他方では行政機関としての性格をもつ。活動に対する現実的制約をそのままにして放置しておいても、図書館の存在はおびやかされることはないという側面ももつ。

ここに図書館活動の困難性があり、これを打ち破る要素は、図書館人の使命観と自覚と変革への意志に俟つ外はない。いま図書館に要求される切実な要素は、このような人間的な要素であり、主体性である。

この意味で、図書館の活動はダイナミックであればあるほど、実験的であり、創造的な立場におかれる。

我々が４３年度におこなってきた図書館活動は、正しくこのような実験的側面を多分にもっていた。

図書館活動は一にも二にも実践活動であり、この実践活動の試行錯誤の過程から理論と方向を生みだしてゆかねばならない。

少くとも１０年を最低単位とする、図書館活動のサイクルからみると、我々の活動は、その本格的展開への端緒に就いたといいうる。それが４３年度の活動である。

2. 活動のあらまし

調布市立図書館は、昭和４１年６月に開館以来、４４年３月３１日現在まで２年１０ヶ月の間、市民の文化活動の一環として図書館奉仕を遂行してきた。

開館当初は、館員２名と蔵書5,６２３冊で発足したものが、４２年度末では館員７名、蔵書１４,８６０冊となり、本年度に至り館員８名、蔵書２０,７８１冊となり、当初からくらべると大幅に充実されてきた。現在の職員構成は、館長１、庶務係２、図書係５名である。

図書館利用についていえば、１年間の入館者は１３０,６０６人、貸出し登録者が１０,７４５人、図書貸出し件数が８１,４９３件（冊）とそれぞれ前年度の利用を高く越えている。ちなみに、開館初年度の利用状況を１００としてみると、本年度の場合入館者が２１２、貸出し登録者が３４９、貸出し件数５１９と市民の図書館利用密度は高くなってきている。

このような、図書の閲覧・貸出し業務の拡大と併行して館外活動に対する努力を注ぎ、１年間に８３回にのぼる読書会・講座・講演会などを実施した結果4,４０２名の多数の参加者がみられた。この館外活動は、従来の図書館に対するイメージを変え、公共図書館が、市民図書館として市民のために存在するという意識を市民に抱かせることに、効果があったものと思う。

いずれにせよ、本年度においても、開館以来の調布市立図書館の目標である、全ての市民の参加による図書館の創造を目指して活動を推進してきたのである。

3. 利用者（入館者）について

図書館の利用者は、本を借りにくる人、館内で読書をする人、館の施設を利用して勉強する人（本の利用は少ない）に大別される。いずれの人も何らかの形で図書館を利用しているのであるが、図書館の開館時間、利用者に対する場所的制約（利用者と図書館の距離）と社会生活がもたらす各種の制約のため大きく妨げられている。市民の図書館利用をさまたげる諸要因は種々考えられるが、利用者の分類をみると別表３の「階層別入館者数」にみられるように、児童・中学生・高校・大学生など時間的制約の比較的少ない階層の利用が全体の６７％強と圧倒的に多い。これに対して、勤人・主婦・自営などの社会人の層は３３％と少なく、図書館利用の制約を大きく受けている。

しかしながら、前年度が学生・生徒層７４％、社会人層２６％であったのが、４３年度は勤人が7.５％が8.7％に主婦が4.2％から７％にとのびを示し、利用者の中での比率が高まり、徐々にではあるが市民の幅広い利用がみえつつある。比率ののびは小さいが、その意味は決して小さくない。

このように時間的制約と共に、他方図書館と利用者との距離的（空間的）制約によってもその利用が大きく左右されることを統計によってみてみよう。別表４の地域別入館者調」及び別表５の「図書館を中心にした距離別入館者調」にみられるとおり、図書館を中心として半径１Km以内の地域に居住している市民の利用が全体の４割強をしめていることに端的に示されている。

即ち、入館票に記入された居住地のはっきりする市民の利用者１０万人のうちで、図書館から半径１Km以内の居住者の入館は４４％をしめ、１Km以内の地域では１８％の利用者があり、これを合計すると６２％と市民の過半数が図書館周辺の市民となっている。逆に、２Km以遠の地域の市民の利用は全入館者の２０％であり、1.５Km以遠２Km以内では１８％となり、1.５Km以遠の遠隔地の利用は合計３２％と利用がぐっと減り、この地域の市民にとって図書館が身近な場所にないことが、その利用を妨げる原因となっている。

つぎに、居住地域（町）別の人口でその地域の入館者数を除した図書館利用率からみると、９５％を越えているのは、下石原、富士見、小島、上布田、下布田、染地の各地域であり、おおむねこの地域の市民は１年に１回は図書館を利用していることを示している。

この地域のうち、下石原、小島、上布田、下布田は図書館から１Km以内であり、富士見は1.５Km以内に位置している。そして多摩川団地のある染地地区は、1.５Km圏にあるが、調布市を貫通する唯一の鉄道である京王線調布駅（調布市の主要駅で市役所・公民館・図書館が集中する）とを結ぶ、バスのターミナルが図書館の近くにあるという交通至便の条件に恵まれている。

これに対して、利用率が３０％に満たない東・西つつじヶ丘、若葉、仙川、緑ヶ丘の各地区はいずれも２Km以遠にあり、かつ、図書館よりも都心寄りに位置しているのである。

同じ２Km以遠の地にある飛田給は８０％の高利用率であるが、これは都心に向う場合に途中下車ができるという、生活行動線上にある条件がある

これらの地域の利用率を距離別にまとめてみると、１Km以内は１３３％、０～1.５Kmが107％、０～２Kmが１０２％となり、２Km以遠になると利用率は急激に減少し２９.７％となる。

このようなことから、図書館利用の条件を考えると、図書館と居住地との距離は１Km以内にあることが理想であるが、少なくとも1.５～２Kmが利用可能距離としては最大限となる。それ以上になると、利用者にとって時間的な負担と心理的抵抗が大となり、利用度が著しく減少する。ただし、遠距離であっても電車・バス等の交通機関が、図書館と市民の日常生活の行動線上――――れとえば通勤・通学・買物――――にある市民にとっては利用が容易となる。この事実は、図書館建設位置を旧来考えられていた、静かな場所や公園などにするという考えをくつがえす実証的な事実である。現代図書館は市民の日常生活に密着していなければならないということを示している。

以上のように図書館を無理なく利用するためには、身近な場所にあることが何よりも重要な条件となり、具体的には少くとも徒歩で利用できる1.５Kmの範囲内にあると共に、日常行動線上、いわゆる便利なところにあることが大切である。調布の図書館が、あらゆる層の市民が利用し、図書館サービスの提供が平等に受けられるためには、この統計にみられる結果を考慮し、地域図書館＝分館を建設することが必要である。

このため本年度は、分館第１号として国領町３－１２－１に国領分館を建設中であり、昭和４４年度中に開館の運びとなっている。そしてこの分館の建設と同時に、地域貸出しとか団体

貸出しなどを積極的におこない、市民の中に直接入り込んでいく利用方法を講じなければならない。（註、本レポートの発刊が遅れたため、このレポートが印刷される時点において、国領図書館は、４４年８月開館、相当な成績をあげている。これについては、引きつづき刊行される、４４年の報告に詳細に記述される。）

4. 閲覧業務について

図書館の入館者のうち、本を借り出して自宅に持ち帰り読む人を除いた者が閲覧者となるが、この中には館内で読書する人と単に座席を利用して勉強する人とがある。別表６の「館内閲覧者調」にみるとおり、本年度では１３０,６０６人の入館者があり、これから館外貸出し件数８１,４９３件を減じた４９,１１３人であり、図書館利用者のうち３８％が館内閲覧者である。

前年度の館内閲覧者が５３％であるから、この数でみる限り図書の利用（貸出し）を中心とする利用者が増加していることがうかがえる。館内閲覧の多いのは、利用者数の順と同じであるが、学生（３６％）と中学生（１６％）で半数をしめ、最も少ないのが自営の０％、勤人0.3％、無職0.7％の各層である。

これを各階層ごとに館内利用の割合をみると中学生の６４％、その他の６１％、学生の５６％となっており、半数以上の入館者が、図書館の施設のみを利用していることになる。このうち「その他」に館内閲覧者が多いのは大学受験生が多く含まれるためであり、これらの層の多くは図書の利用学習参考書、辞書、辞典類にとどまっている。

逆に館内閲覧が少ないのは、主婦２１％、無職１８％、勤人１６％、児童７％であって、在学者、受験生を除く各層の入館者の大部分は、本を借り出して家に持帰り読書をする人達である。これは、仕事の都合で図書館で腰を落着けて読書をする時間を持てない利用者であり、これらの数値をみても図書館利用は、日常生活の時間的制約に大きく左右されていることが明確である。これらの事実は、現代図書館の存在意義を改めて問うている。

このように時間的制約の強い市民にとって図書館の利用には制約があり、利用するにも館内閲覧はできなくどうしても貸出し中心になる。そのために、現代の図書館の機能は従来のように暇のある人が、たまたま利用するという形ではなく、多忙な時間を最大限に利用するために、図書館は市民の書庫としての貸出しを主体とすることが一番大きな目的となってくる。それと同時に、読書意欲を刺激していく質的な館外活動も必要とされる。また図書館の未利用層の開拓という仕事が、一つの大きな課題として浮び上ってくる。

一方では、現在、市立中央図書館の座席数は１４４席というわずかな数しかなく、館内閲覧の利用が著しく妨げられている現実がある。ちなみに本図書館の規模は、現代図書館の規模からすれば、小さな分館程度にすぎないのである。

座席の利用状況は、１日の入館者を座席数で除した座席回転率で表わされるが、本年度の場合学生・一般閲覧室が 2.6回、児童室が 6.8 回となり、平均で 3.3 回が１座席について１日に利用されていることになる。前年度では平均回転率が 2.6 回であるところから、施設の拡張が

ない限り、利用者が増加すればするほど座席の確保が困難になる。

これでは利用者の望む時間に来て、自由にゆっくりと読書ができる状態ではない。座席を確保するために、開館時間前から待っていたり、満員のために入室を制限したりしているのが実情であり、電車やバスを利用して来てもやむなく利用せずに帰る人もいるのです。

また、たとえ座席が確保されても、閲覧室が手狭なため多数の人が入ると、どうしても騒音が発生し、換気がわるく読書に適さない状態になることが多々みられるのが現状である。

しかしながら、現在の住宅事情を考えるとき、各家庭において勉学、読書をおこなう環境に恵まれない人々も少なくなく座席の利用のみに図書館が利用されることは現実の問題としてやむをえないことであろう。他方図書館での勉学が知的な刺激になることを告げる学生もいる。

このように現在すでに閲覧室は飽和状態にあるので、中央館としての機能と設備を有する図書館の建設が待たれる段階が早くも到来しているのである。

5. 貸出し業務について

市民図書館は、学術の調査研究と資料の収集保存を目的とする大学・専門図書館とことなり、教養・娯楽・趣味・実用など広く市民全体の利用に供することを目的にしている。

そして利用形態の主なものは図書の貸出しであり、調布市立図書館もこの目的に添って活動しており、蔵書もそのように収集し構成している。

このように当館の中心業務である貸出し活動のために、貸出し方法は最も進んだブラウン方式を採用し、利用者は簡単な登録手続きにより貸出券を受取り、手軽るに借り出すことができる。利用者の図書の選択は、全館開架式書庫となっているので、借りようと思う本を自由に手にとってみることができるので容易であり、気安さと便利さが供与される。

貸出し活動は登録率（登録者数÷奉仕人口（市民の全人口）×１００）と貸出率（貸出冊数÷奉仕人口×１００）により示されるが、これは図書館の知名度と利用者の本の利用の意志を表わしている。

別表２の「年度別にみた図書館利用の推移」の中から登録率をみると、本年度は7.6％で市民１００人に対し僅かに８人弱が登録をしているにすぎない。しかし、４１年度が2.5％、42年度が6.9％であったことにくらべ増加はしているが、まだまだ図書館は市民に縁遠いものである。登録者数は中学生以上の一般が5,747人、小学生以下の児童が4,999人 で 合 計１０,７４６人となり、開館初年度を１００とすると４２年度が３０２、本年度が３４９と着実に増えている。

このことは、啓蒙普及活動に努めたこと、数多くの館外活動を実施したことなどにより、市民の間に図書館に対する認識が深まり、利用が広範かつ頻度が増えたことによるものであろう。これらの登録者の図書の利用程度を知るには、貸出利用書率（年間貸出冊数÷登録者数）でみることができる。

これによると本年度は、登録者１人が平均7.6冊を利用したことになるが、前年度が5.3冊

であるのに比較すると登録者の図書利用度が大幅に高まっていることがわかる。

つぎに、市民1人が図書館から年間何冊の本を借り出しているかを貸出率でみると、0.58であるから市民1人が年間0.6冊弱を借りていることになる。これを41年度を100(0.15冊)としてみると、42年度は317(0.37冊)、本年度は519と図書の利用伸張度は高くなってきているが、市民全体からみればいまだ低いものである。

1年間の貸出冊数は、一般40,287冊、児童41,209冊、合計81,496冊であり、僅かではあるが児童が51%、一般が49%と利用の割合が児童の方が多くなってきている。即ち、前年度が47%対53%で一般が多かったことにくらべて、本年度において児童の本の利用が伸びたのは、親子読書会、小学生に対する読書の動機づけ指導、子ども読書会などの活動をとおして、児童の読書普及を推進していることが表われたのであろう。子どもの貸出しが多いということは、他の図書館活動とくらべて、調布図書館の特長であり、読書の習慣を幼時につけておかなければ、生涯、不読者になってしまうことを考慮して、力を入れているこの表れである。

つぎに蔵書の回転率をみると、前年度が3.3回であったのが本年度では3.9回となっている。

この回転率は年度末蔵書数で年間貸出し冊数を除した数値であり、1冊の本が年間に利用された回数を示すものである。従って、この数値が高ければ本がより利用されていることになり、死蔵図書がなくなるわけである。

蔵書回転率を一般と児童とに分けてみると、一般が2.5回、児童が9.4回であり、児童図書の利用頻度がいかに高いかを示している。これは入館者についても、児童が全体の36%をしめている利用の高い事実とあわせて、今後の児童に対する図書館活動の方向を示唆している。

6. 貸出し図書からみた読書傾向について

前に述べた蔵書回転率を分類(部門)別に出したのが、別表7の「分類別図書貸出状況調」である。この表にみられるとおり、利用頻度(回転率)の一番高いのが、文学の3.6回であり、低いのが総記の0.7回及び語学の0.9回となっている。

その他の部門では、工業家庭の2.5、芸術・スポーツの2.1、自然科学1.8、哲学宗教1.7、歴史地理1.6、社会科学1.4、産業交通の1.2の順となっている。このように図書の利用頻度からみると、文学小説をはじめとして工業家庭、芸術スポーツの各部門が多く読まれ、利用傾向は趣味・娯楽・実用の本に集中している。

しかしながら蔵書回転率は、図書の利用度=読書傾向を表わす反面、各部門の蔵書の冊数に規定され、よい本が多くなり魅力が増せば利用が高まる要素がある。

従って、現状の貧弱な蔵書による単純な統計値からでは、部門ごとの傾向の比較はつつしまなければならない。即ち、本の需用の多さに比べ、利用される部門の本が少ない場合は、1冊の本が何回も利用されるからであるが、一応の目安とはなるであろう。

つぎに、一般図書の年間貸出冊数の中で、各部門がいかなる割合で読まれたかをみると、文

学小説類の584%を最高とし、その他の部門はみな9%以下となっており、産業交通1%及び語学の1.1%が最低となっている。

即ち、5%以上の割合をもつ比較的貸出しの多い部門は、文学小説の他に社会科学8.6%、歴史地理7.7%、芸術スポーツ5.5%であり、5%以下の部門は工業家庭4.8%、自然科学4.7%、哲学宗教4.2%、総記1.5%、語学1.1%、産業交通1.0%となっている。

この貸出し順位は、蔵書回転率の一冊の本の利用頻度を示すものではなく、貸出し総冊数中の各部門ごとの割合であるので、読書傾向が一層はっきりする。

この数値でみると、文学小説を中心とし、伝記旅行関係を含んだ歴史地理類と社会科学、芸術スポーツ娯楽趣味など5%以上の貸出しのある4部門の合計は一般図書の総貸出し冊数中の80.2%をしめている。この傾向は市民図書館の一つの蔵書のあり方を示しているものとして注目される。

さらに、この読書傾向を階層別にみたのが、別表8の「階層別に見た分類別貸出状況調」である。これによると、各層を通じ文学小説類が52～65%の高率で読まれているが、この部門以外で貸出しの多い2部門について各階層ごとにみるとつぎのようになる。

中学生では、芸術スポーツと自然科学が、学生では社会科学と哲学宗教が高率であるのが特長となっている。勤人では、社会科学、歴史伝記の順となり、主婦では家事家庭、雑誌が読まれているが、自営業では歴史・伝記、社会科学が読まれている。また、無職では歴史伝記、芸術スポーツが多く、「その他」(受験生その他)では社会科学、芸術スポーツとなっている。

こうしてみると、社会科学が共通してよく読まれ、ついで歴史伝記と芸術スポーツとなっているが、中学生では趣味的なものと自然科学に特長的であり、学生は教養と思索に重点がおかれている。勤人と自営は共に教養的な読書であり、主婦は家事家庭と婦人雑誌の利用が多く実用的である。無職と「その他」の層では趣味に多く、また教養的なものが高いのは、「その他」の層に受験生が多く含まれているからであろう。

つぎに別表9の「分類別にみた階層別貸出状況調」により、貸出し図書が分類別ではどの階層によく読まれたかをみると、学生・勤人層が各部門をとおして平均してよく読んでいる。

以下分類(部門)別にみると、雑誌は貸出冊数の41%が主婦であり、勤人25%、学生19%となるが、主婦の利用の多くは実用的な婦人雑誌が多い。総記では、学生42%、勤人27%と多く、主婦の12%という比較的利用の高いのが目立っており、哲学宗教ではやはり学生が59%と圧倒的に読まれ、ついで勤人の22%で他の層では10%以下となっている。

歴史伝記類では中学生の11%という利用の高さが注目され、学生38%、勤人29%と多く、ここでは主婦が9%と比較的低い。地理地誌では学生37%、勤人29%のほかに、中学生13%、主婦11%の利用が多い。また、社会科学と自然科学をみた場合に学生層は48%と50%でいずれも高いが、中学生では社会科学が1%であるのに自然科学は19%と高くなっており、逆に勤人・主婦では社会科学がそれぞれ30%、12%と高く、自然科学は15%、7.5%と低いのが目立っている。

工業・工学については、中学生の１５％、主婦の１４％と利用程度の高さが注目される現象であり、学生３７％、勤人２５％となっている。家事家庭部門の主婦５６％という高い利用は当然予想される数値であり、以下、勤人２１％、学生１０％の順となっているが、産業交通部門において、学生３１％、勤人２５％、主婦１６％、中学生１３％という利用状況の中で、主婦の高い利用が目立っている。

ついで、芸術スポーツ娯楽の分野では、学生の３８％、中学生・勤人の各２１％、主婦９％であり、中学生の高い利用と主婦の低さが見立っている。語学では学生の４０％の他に勤人の３３％と高いのが特徴的であり、中学生１２％についで主婦の１０％が割合に高い数を示している。

最後に、文学小説類では学生３１％、勤人３０％、主婦２０％、中学生１１％の順となり、「その他」の層は８％であり、これを昨年と比較すると学生は１０％減、勤人・主婦は４％増、中学生２％減、「その他」３％増となり、勉学中の者の利用が減り社会人の利用が増加していることがわかる。

7. 蔵書について

図書館の生命は蔵書とその活用にある。いかなる設備を誇っていても、図書資料がなければ図書館は１日たりとも活動はできない。また、図書が利用されずに死蔵されていれば、図書館の機能を果しているとはいい難い。

調布市立図書館は施設の関係上閲覧業務が制約されており、かつ、利用者のいろいろな社会生活上の制約があるので、活動の主体は貸出しが中心におかれている。この場合、蔵書が多くその種類が豊富でないと利用者にとって魅力がなくなり、図書館の価値が半減する。

しかしながら、図書館が市民全体の奉仕機関として、その役割を良心的に果さなければならないのはいうまでもないが、市民のあらゆる要求を完全かつ充分に満たすためには、膨大な数の図書資料を収集保管しなければならない。これは一市立図書館の能力を大きく超えるものであり、とうていでき得ない。そこで、一般的に市民図書館は高度な純学問的専門的な図書を備えることを必要としないが、少くとも日常社会生活に不可欠な蔵書を持たなければならないことになる。

即ち、市民の要求する資料の７０～８０％は最少限備えて需要に応じられることが必要とされよう。そして残りの学問的専門的なものについては、国会、都立、大学、その他の専門的図書館を利用することを考えなければならない。しかし、調布市立図書館は開館以来２年10ヶ月と歴史が浅く、蔵書についても不充分な状態におかれ、日常の用に供する図書資料も不足がちで、市民の欲するところのものを直ちに応じられないのが現実であり、早急にこれを改善してゆかなければならない。

昭和４１年６月開館当初においては蔵書数わずかに5,６２３冊で発足し、而もその多くを寄贈図書に依存する状態で、同年度末で9,２５４冊になり、昭和４３年度末では１4,８６０冊に

増加した。

そして、本年度においては、別表１０の「昭和４３年度蔵書増加調」にみられるとおり、5,９２１冊の増加となり、２０,７８１冊となったのである。増加の内訳は、購入が4,８４９冊で全体の７９％、寄贈が1,１８８冊で１９％、移管その他の増が１３７冊で２％となっている。

寄贈図書が増加図書の１９％の多きに達しているのは、市民の図書館に対する深い関心と理解による協力のたまものであり、感謝すると共に今後も物心両面からの一層の協力が得られるよう努めたい。なかでも常楽院（西つつじケ丘）住職、故本多綱昭氏の遺志を受けて本多ミヨ氏から図書購入費として３０万円の寄付があり、これを基に児童図書６００冊を購入し、「本多文庫」と命名してこれを記念とした。

このように開館当初から比較すると、蔵書は3.７倍に増加したのであるが、「図書館法実施運用に関する委員会」による「市立図書館の望ましい基準」では、人口１５万人の場合に蔵書７万冊、１６万人では７万３千冊とされている。また、三多摩における公共図書館の平均蔵書は約３万３千冊、東京都全体の平均では約３万冊であることから、調布においても最少本館においても３万冊は備えたいところである。

そしてできうるならば１世帯に１冊、さらに市民２人に１冊程度の図書（昭和４３年４月１日の人口１４１,２６４人、世帯４２,２４７戸であるから、７万冊ないし４万冊）を備えたいのが図書館の願いである。（注、市民の真の利用をはかるためには、少くとも１０万冊位のものが要求されるが、図書館の長期計画で、分館網を整備し、各館２～３万冊を備えるようにしたい。）

つぎに蔵書構成であるが、全蔵書２０,７８１冊のうち一般図書が１６,３８９冊で７９％、児童図書が4,３９２冊で２１％である。この構成に対して、入館者のうち一般が６６％、児童が３４％となっており、さらに貸出冊数の割合をみると一般が４９％、児童が５１％となっている。

このように、児童の入館及び貸出しの利用度が、蔵書構成上の児童図書の比よりも高いので児童図書を充実する必要があろう。さらに一般図書のうち３９％が文学小説類であるが、貸出しでは５８％と高率を示しており利用が高いので、図書購入の際に考慮しなければならない。

別表７の「分類（部門）別図書貸出状況調」にみられるように、各々の部門についても蔵書構成比と利用状況との不均衡がみられ、部門により不足しているもの、利用されていないものがあるようである。しかし、現時点では蔵書の不足が読書意欲を刺激せず利用されないということが充分考えられるので、一定水準に達するまでは各部門を通じて充実させることが急務である。

なお、蔵書計画に際して参考になるのは、先に述べた別表７中の分類別蔵書構成比と、一冊当りの図書回転率及び貸出し割合である。これによると、前述したとおり文学小説類は部門中蔵書も多いが、図書の年間利用回数を示す回転率、及び貸出し割合も一番高く需要が多いのでさらに充実する必要がある。

つぎに、歴史地理、社会科学は蔵書構成、貸出し割合共に高く、逆に回転率が低いところから比較的求めに応じられる状況にある。哲学宗教、自然科学、工業家庭、芸術スポーツ部門の回転率がいずれも１５回以上で利用度も高く、貸出しも多いところから図書の不足がうかがわれる。その他、総記、産業交通、語学類は回転率、貸出し割合も低くなっているので、蔵書を豊富にすることにより新鮮な魅力を与え、利用を高めることが必要であろう。

このように、今後とも図書を増やすことが急務であるが、ただいたずらに冊数を増やすのではなく、市民の要求するところをよく理解し、死蔵図書がないように考慮して、役立つ図書、利用される図書を収集整理し生きた魅力あるものにしてゆきたい。

8. 館外活動について

図書館活動の中心は、図書資料を媒体として市民の教養を高め、調査研究、娯楽等の用に資し市民の知的欲求を充足することにあるが、たんに市民の自発性を待つのみでは市民文化の向上発展は望めない。特に図書館利用の経験のない市民が多く、欧米のように図書館が完備されていない社会の中で育つ子どもは勿論のこと、従来図書館が、ほとんどなかった環境の中で過してきた成人層にとって、図書館は遠い存在であり、かつその結果として不読者層が広範に存在しているのが現状である。現代のように、複雑に、情報を要求される社会の中で、いかなる市民もそれぞれに応じて、適確な判断が要求される。図書館はその文化、情報の媒介の役割を充分果さねばならない社会的使命を負わされているのである。

この発展のためには、図書資料の提供と同時に市民の文化的欲求を刺激開発することが必要であり、この手段として講演会・読書会などの館外活動が考えられてくる。即ち、図書館活動は図書の資料の提供と館外活動とは不可分の関係にあり、相互に補完し相乗的に効果を高めなければならない。

調布市立図書館では、このような見地に立って昭和４３年度の館外活動をおこなってきた。

(1) 講演会・講座について

講演会活動としては、図書館及び読書に対する啓蒙普及を目的とするもの、知識を深め教養を高めることを目的とするもの、時局に関する正しい情報を得て正しい判断を持つことを目的とするもの、など種々あるが、これら三つの目標を達成するための活動を実施してきた。

また、講座は講演会と異なり、一定のテーマを系統的に深く集中して追求できる長所があり、「子どもの本の与え方、選び方講座」と「古典文学講座」を開設した。

本年度における講座講演会の開設は２１回であり、これに参加した市民は延１,８９２名にのぼった。

(2) 小学生読書動機づけ指導について

読書の動機・時期については必ずしも一定ではないが、小学生３年生前後は心身共に急速な発達段階をたどり、教科など知的な学習の飛躍をはじめ運動神経も著るしい発達をみせる。この大切な時期に読書に対する興味と関心をひきおこし、読書の基礎を植え付けておくこと

は、将来の読書力の養成に大きな役割をはたすものと考えられる。読書心理学の研究によっても、このことは実証されている。

この意味から読書の動機づけを目的として、市立の７ヶ所の小学校を対象に１２回実施し、４８３名の児童が参加した。

(3) 地域読書会と親子読書会の育成と活動について

図書館の仕事は、市民の自発的な読書意欲が根底になければ発展がなく、読書意欲は読書の手段と機会が手近かに、たやすく求められることを第一とする。そして読書をとおして創造力豊かな人間形成をおこない、考える市民を育成し新しい市民文化を創造していかなければならない。

このような本質的な読書を掘り起し、文化の視野を広げていく有効な手段と仕事が地域読書会の育成であり、本年度はこれの育成に努めると共に読書会活動を実施してきた。

また、子どもにとっては読書に対し放任しておくだけでは自然に本好きになっていくことはなく、そこで「親子読書」という一つの読書の方法が考えられてくる。

親が本当によい本を選び与えて、親と子が同じ本を読んだり、解説したり読み聞かせをして相手をしてやること。親子のグループを作り、集団的な読書をすること。これらの本を読む行為をめぐって、親と子のいわば共同作業の場を作りあげていくための、親子読書の実践を本年度から開始した。そして、これらの読書会活動を年間２１回実施し、これに２８７名の市民が参加した。

(4) 子ども読書会と子ども会

図書館児童室利用の子ども達との接触は、館員がいかに努力しても受付での短い時間では事務的になりやすく、読書感想を聞くことや読書相談、図書の紹介などが充分にできないのが現状である。

これを補い、館員と子どもとの交流を図るために「子ども読書会」を組織して、４４年１月から活動をはじめた。「子ども読書会」は小学生を対象に、１～２年、３～４年、５～６年の３グループに分け、毎月各グループが１回の読書会を続けている。

子ども会は、現在図書館を利用している児童との交流を図り、また図書館を利用したことのない児童のために、図書館の存在と利用方法を知らせ身近なものにするためにおこなったもので、読書・図書館の啓蒙及活動の一環として実施したものである。

これら、児童を直接対象とした活動は年間１３回おこない、１,２００名余にのぼる多数の参加者がみられた。

(5) 市立小学校図書室、ＰＴＡ・地域とのこん談会

調布市立図書館が、学校やＰＴＡなどと協力して地域の読書活動や文化活動を進めてゆこうとしているのは、ただたんに図書館法第３条に学校などと緊密に連絡し協力することと書いてあるからではない。

読書、教育、文化の問題は、学校や家庭、図書館などそれぞれの独立した当事者だけの問

題なのではなく、これらを含めた地域全体の問題であるからである。秀れた教育環境の創造こそ地域教育の第一の課題である。

こうした考えに立って、市立図書館では相互に意見を交換し、児童の読書、市民文化の向上を図るためのこん談会を、年間7回実施し、参加した１６８名の市民と考えてきた。

(6) 地域文庫との提携

施設が小さく、乏しい図書資料、少ない館員の図書館に比して、その需要は大きく、現在の市立図書館の力量では市民の要求を充分に満たすことは不可能である。

そこで既存の個人の善意にもとづいて経営する、「地域文庫」との提携と文庫の育成に努め、地域での図書の供給や読書推進活動の普及をはかった。その結果、３ケ所の地域文庫が生まれ、既存の文庫と合せて市内９ケ所の文庫が活動をして大きな成果をあげている。

読書活動に不可欠な図書資料については、都立日比谷図書館から長期貸出しを受けた、年間2,０００冊の図書を文庫の規模・能力に応じて配本した。

(7) 文学散歩の実施

新しく市民になった人も、もとからいる人も共に、バスにのって、互に交歓しながら、近郊の史蹟や文学碑めぐりなどを実施して、郷土意識を深めることにつとめた。この行事は、比較的高い年令層の人が多いが、若い人の参加もあり、年中行事化している。これによって調布市民としての意識が植えつけられると訴える市民が少くないことは、図書館の活動として効果が高いと思われる。

(8) その他の館外活動

地域文庫、ＰＴＡ文庫、親子読書会などの要請により、図書の整理法と製本についての講習会をおこなった。この講習は文庫などの図書の整理・管理保存に直接役立つものであると同時に、図書館の仕事を理解し本に愛着を持つということに有益なものである。

また、市立図書館が活動を開始して以来３年足らずであり、啓蒙普及活動を続けているが、市民の間での図書館に対する認識がいまだに浅い。所在地、利用方法なども周知のものとなっておらず、無料であることすらも知らない市民が多いのが現実である。

これらの事実に対して、一人でも多くの市民に図書館を理解し、利用してもらうために見学会をおこない、図書館、読書の意義、利用状況、利用方法などについてＰＲをおこなった。

この見学会及び製本講習会を年間９回おこない、３７０名の市民が参加した。

9. おわりに、―― 図書館活動の方向

図書館とは市民にとって何であるか、これが図書館人にとって追求すべき課題である。市民はいつ、どんな目的で何を図書館に求めるか。それはひとり、ひとりの図書館利用者によって異なる。しかし、その必要ができたときに市民と図書館とは結合され、おそらくその必要は持続されるようになるであろう。だから、図書館が存在することは、市民にとっても、市民文化の創造ということにとっても、欠くべからざる基本的な条件ということができる。

図書館の必要性を市民に意識させる契機の中には、種々様々な要因がありうるが、市民が何らかの情報を、或いは知識を自己の生活的な欲求として顕在化させていく行為がその根底に存在する。図書館は、このような市民の知的欲求を満たすことのできる能力をもたなければならない。

このような要求に対応しうる活動の方向として、図書館の活動を分ければ内包的なものと外延的なものが考えられる。内包的なものとは、図書館が深く内部に情報、知識の源泉を蓄積してゆくことであり、外延的なものとは、図書館の活動の範囲をひろく拡げていくことである。

この二つの方向が調和し、時には交錯しあいながら充実していくことが図書館の活動である。

調布市立図書館が４１年６月に開館して約３年の間に、ようやく基礎づくりができつつある。本年度は分館第１号として国領分館を建設中であり、４４年度には開館の運びとなっている。

しかし、現在までの図書館奉仕の範囲（利用者の地域）は依然として片寄っており、また図書館としての体質もこれからもっと充実させてゆかなければならない。

われわれは、図書館の活動は、実践にはじまり、実践に終ると考えている。

実践の中から理論をうみだし、理論は実践によって鍛えられ、この試行錯誤の行程の中から次第に図書館像が生れてくるものと思われる。その根底にあるのは図書館人の徹底した奉仕意識であり、かつこれを自己のものとして人間形成と文化創造に結びつけてゆく、市民の活動の存在である。この意味で図書館活動は同時に、市民活動と深いかかわりをもつ、図書館は建物ではなく、建物、資料を媒介として、これを市民の知的活動に発展させてゆく、秀れた図書館職員を生み出すことを試金石としている。われわれは、この目標に勇敢に立ち向ってゆきたい。

表1　図書館利用状況調

自　昭和43年4月　1日　　開館日数　273日
至　昭和44年3月31日　　人口 141,264（S 43.4.1現在）

暦月	開館日数	貸出登録者 一般 月別登録者数	一般 登録累計	児童 月別登録者数	児童 登録累計	左の計 月別登録者数	左の計 登録累計	入館者 一般	入館者 児童	入館者 左の計	入館者 月間最高	入館者 月間最低	入館者 1日平均	図書貸出件数 一般	図書貸出件数 児童	図書貸出件数 左の計	図書貸出件数 月間最高	図書貸出件数 月間最低	図書貸出件数 1日平均
43年 4月	23	1,514	1,514	1,247	1,247	2,761	2,761	5,494	3,109	8,603	670	155	373	3,048	2,741	5,789	800	111	252
5	23	611	2,125	519	1,766	1,130	3,891	7,092	3,233	10,325	626	247	449	2,881	2,997	5,878	385	131	255
6	25	488	2,613	520	2,286	1,008	4,899	7,888	3,732	11,620	609	256	464	3,273	3,494	6,767	384	149	271
7	25	474	3,087	423	2,709	897	5,796	7,915	4,064	11,979	672	332	488	3,156	3,524	6,680	451	156	267
8	26	675	3,762	424	3,133	1,099	6,895	9,212	4,543	13,755	737	358	529	3,990	4,101	8,091	432	220	311
9	23	474	4,236	357	3,490	831	7,726	8,129	4,101	12,230	709	325	531	3,954	3,460	7,414	490	206	322
10	24	364	4,600	321	3,811	685	8,411	7,869	3,646	11,515	725	284	480	3,838	3,443	7,281	422	188	303
11	23	291	4,891	274	4,085	565	8,976	6,686	3,634	10,320	765	308	448	3,632	3,747	7,379	528	232	320
12	20	165	5,056	215	4,300	380	9,356	6,377	3,272	9,649	779	233	483	3,471	3,676	7,147	593	137	358
44年 1月	21	244	5,300	275	4,575	519	9,875	6,125	3,576	9,701	799	258	462	3,032	3,267	6,299	488	165	300
2	22	311	5,611	225	4,800	536	10,411	7,807	3,813	11,620	823	192	528	3,819	3,911	7,730	520	137	352
3	18	136	5,747	198	4,998	334	10,745	5,510	3,779	9,289	1,038	160	516	2,193	2,845	5,038	503	102	336
合計	273日	5,747	5,747	4,998	4,998	10,745	10,745	86,104	44,502	130,606				40,287	41,206	81,493			
月平均	22日	479		417		896		7,175	3,709	10,884				3,357	3,434	6,791			
1日平均		21		18		39		315	163	478				148	151	299			

備考
座席回転率　学生・一般　315／120≒2.63回　児童163／24≒6.79回
登録率　10745／141264≒7.6％
（登録人口）（奉仕人口）
貸出率　（年間貸出冊数）81,493／141,264（奉仕人口）≒0.58冊
蔵書回転率　（　〃　）81,493／20,781（年度末蔵書数）≒3.92回
貸出利用書率　（　〃　）81,493／10,745（登録者数）≒7.58冊
図書保証率　（年度末蔵書数）20,781／141,264（奉仕人口）≒0.15冊

平均　478／144≒3.32回

（内訳　一般40,287／16,389≒2.46回　児童41,206／4,392≒9.38回）
（内訳　一般40,287／5,747≒7.01冊　児童41,206／4,998≒8.24冊）

表2　年度別にみた図書館利用の推移

区分		昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度
入館（利用者）	一般	42,977人	70,073人	86,104人
	児童	12,726人	32,835人	44,502人
	計	55,703人	102,908人	130,606人
	伸長指数	100	185	212
	利用率	45.8%	76.8%	92.5%
貸出登録	一般	2,161人	4,906人	5,747人
	児童	921人	4,387人	4,999人
	計	3,082人	9,293人	10,746人
	伸長指数	100	302	349
	登録率	2.5%	6.9%	7.6%
貸出	一般	10,115件	26,307件	40,287件
	児童	5,587件	23,397件	41,209件
	計	15,702件	49,704件	81,496件
	伸長指数	100	317	519
	貸本率	0.13冊	0.37冊	0.58冊
	貸出利用書率	5.1冊	5.3冊	7.6冊
蔵書	一般	7,810冊	12,272冊	16,389冊
	児童	1,237冊	2,588冊	4,392冊
	計	9,047冊	14,860冊	20,781冊
	伸長指数	100	161	225
	保証率	0.07冊	0.11冊	0.15冊
蔵書回転率（図書の年間利用回数）	一般	1.3回	2.1回	2.5回
	児童	4.5回	9.0回	9.4回
	平均	1.7回	3.3回	3.9回
座席回転率（1日の座席の利用回数）	一般（120席）	1.46回	2.10回	2.62回
	児童（24席）	2.54回	4.92回	6.79回
	平均	1.62回	2.57回	3.32回
人口（各年4月1日現在）		121,720人	134,027人	141,264人

表3　階層別入館者数調

月別／階層別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	階層別入館割合	前年度入館割合
														%	%
中学生	878	1,013	1,047	1,389	2,379	991	822	739	859	666	682	514	11,979	9.2	10.7
学生	1,818	2,625	2,844	2,774	2,816	3,079	3,089	2,435	2,436	2,413	3,217	2,108	31,654	24.2	31.2
勤人	797	813	1,104	994	1,113	1,131	1,106	996	792	790	944	809	11,389	8.7	7.5
主婦	553	608	804	734	812	872	844	913	676	736	896	682	9,130	7.0	4.2
自営	43	36	44	33	50	52	56	32	41	26	45	20	478	0.4	14.4
その他	268	340	340	344	306	448	431	466	341	355	450	192	4,281	3.3	
無職	135	168	189	141	156	162	137	172	140	156	170	112	1,838	1.4	
不明	1,002	1,489	1,516	1,506	1,580	1,394	1,384	933	1,092	983	1,403	1,073	15,355	11.8	
一般計	5,494	7,092	7,888	7,915	9,212	8,129	7,869	6,686	6,377	6,125	7,807	5,510	86,104	66	68.1
児童	3,109	3,233	3,732	4,064	4,543	4,101	3,646	3,634	3,272	3,576	3,813	3,779	44,502	34	31.9
合計	8,603	10,325	11,620	11,979	13,755	12,230	11,515	10,320	9,649	9,701	11,620	9,289	130,606	100	100

表4　地域別入館者数

地域名	地域人口 (S 44.1.1 現在)	入館者数 一般	入館者数 児童	入館者数 計	入館者割合 (地域別入館者/入館者総数) 一般	入館者割合 児童	入館者割合 平均	地域別利用率 (地域別入館者/地域別人口)
	人	人	人	人	%	%	%	%
飛田給	3,861	1,958	1,126	3,084	2.3	2.5	2.4	79.9
上石原	7,929	3,239	2,687	5,926	3.8	6.1	4.5	74.7
下石原	12,067	6,730	5,872	12,602	7.8	13.2	9.7	99.9
富士見	8,329	5,882	2,132	8,014	6.8	4.8	6.1	96.2
小島	8,168	7,837	4,969	12,806	9.1	11.2	9.8	156.8
上布田	5,406	5,241	4,741	9,982	6.1	10.7	7.6	184.7
下布田	7,393	5,371	3,315	8,686	6.2	7.4	6.7	117.5
国領	16,428	6,830	2,791	9,621	7.9	6.3	7.4	58.6
染地 (含上ケ給)	8,181	5,298	4,860	10,158	6.2	10.9	7.8	124.2
深大寺	16,750	3,866	1,605	5,471	4.5	3.6	4.2	32.7
佐須	4,284	1,472	719	2,191	1.7	1.6	1.7	51.1
柴崎	4,004	1,054	400	1,454	1.2	0.9	1.1	36.3
大町	3,709	1,046	564	1,610	1.2	1.3	1.2	43.4
西つつじケ丘 (含金子)	15,200	1,767	1,629	3,396	2.1	3.7	2.6	22.3
東つつじケ丘 (含入間)	9,972	1,517	953	2,470	1.8	2.1	1.9	24.8
若葉	4,252	885	380	1,265	1.0	0.9	1.0	29.8
仙川	3,619	493	98	591	0.6	0.2	0.5	16.3
緑ケ丘	7,006	688	273	961	0.8	0.6	0.7	13.7
市内計	146,558	61,174	39,114	100,288	71.1	87.9	76.8	68.4
市外		10,185	2,377	12,562	11.8	5.3	9.6	
不明		14,745	3,011	17,756	17.1	6.8	13.6	
合計		86,104	44,502	130,606	100	100	100	

表5　図書館を中心にした距離別入館者調（前年度との比較）

距離区分	年度	人口	入館者数	利用率	距離別入館者割合	該当地域
		人	人	%		
(A) 1 Km以内	43	33,034	44,076	133.4	43.9	下石原、小島、上布田、下布田
	42	31,518	38,038	120.7	36.9	
(B) 1 Km以遠 1.5Km以内	43	24,757	17,635	71.2	17.6	富士見、国領
	42	24,339	15,072	61.9	14.3	
(C) 1.5Km以遠 2 Km以内	43	20,394	18,275	89.6	18.2	上石原、佐須、染地
	42	17,815	11,652	65.4	11.4	
(D) 2 Km以遠	43	68,373	20,302	29.7	20.2	飛田給、深大寺、柴崎、東つつじケ丘、大町、若葉、仙川、緑ケ丘、西つつじケ丘
	42	65,603	14,195	21.6	13.9	
(E) 0 Km以遠 1.5Km以内	43	57,791	61,711	106.8	61.5	(A)+(B) の地域
	42	55,857	53,110	95.1	51.1	
(F) 0 Km以遠 2 Km以内	43	78,185	79,986	102.3	79.8	(A)+(B)+(C) の地域
	42	73,672	64,762	87.9	62.6	

表6　館内閲覧者調　（図書の館外貸出しを受けず館内で閲覧・勉強のみする利用者）

階層別	A 入館者数	B 貸出者数	C (A－B) 閲覧者数	(C／A) 階層内閲覧者比	(C／閲覧者合計) 階層別閲覧者割合	(C／入館者総数) 総入館者に対する閲覧者割合
				%	%	%
中学生	11,979	4,222	7,757	64	16	5.9
学生	31,654	13,962	17,692	56	36	13.5
勤人	11,389	11,211	178	16	0.3	0.1
主婦	9,130	7,200	1,930	21	4	1.5
自営	478	530	0	0	0	0
その他	4,281	1,649	2,632	61	5	2.0
無職	1,838	1,513	325	18	0.7	0.3
不明	15,355	0	15,355	100	31	11.8
一般合計	86,104	40,287	45,817	53	93	35.1
児童	44,502	41,206	3,296	7	7	2.5
合計	130,606	81,493	49,113	38		37.6

表7　分類（部門）別図書貸出状況調

分類	月別貸出冊数 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間貸出冊数	1日平均貸出冊数	月平均貸出冊数	一般図書の貸出割合	蔵書回転率	一般図書蔵書構成比
													冊	冊	冊	%	／	／
雑誌	64	55	100	90	124	86	69	99	112	101	111	70	1,081	4.0	90.1	2.7	／	／
総記	40	55	51	47	61	54	63	42	55	40	57	31	596	2.2	49.7	1.5	0.7	5
哲学・宗教	130	137	167	116	141	163	157	148	152	147	163	78	1,699	6.2	141.6	4.2	1.7	6
歴史・伝記	151	137	171	160	266	222	200	177	187	152	175	126	2,124	7.8	177	5.3	1.6	12
地理・地誌	71	89	114	99	101	78	54	88	72	63	100	50	979	3.6	81.6	2.4		
社会科学	227	281	272	226	306	334	328	277	287	324	384	204	3,450	12.6	287.5	8.6	1.4	15
自然科学	137	143	170	137	184	186	162	152	169	147	208	100	1,895	6.9	157.9	4.7	1.8	6
工業・工学	62	46	73	54	72	88	83	85	79	73	82	51	848	3.1	70.7	2.1	2.5	5
家事・家庭	78	62	100	72	100	118	106	94	87	77	114	61	1,069	3.9	89.1	2.7		
産業・交通	40	38	36	23	25	45	28	42	31	28	29	19	384	1.4	32	1.0	1.2	2
芸術・スポーツ・娯楽	145	162	198	172	210	212	208	196	221	153	218	128	2,223	8.1	185.3	5.5	2.1	6
語学	26	35	29	32	44	28	47	31	52	33	45	19	421	1.5	35.1	1.1	0.9	3
文学	1,877	1,641	1,792	1,928	2,356	2,340	2,333	2,201	1,967	1,694	2,133	1,256	23,518	86.1	1959.8	58.4	3.6	39
一般計	3,048	2,881	3,273	3,156	3,990	3,954	3,838	3,632	3,471	3,032	3,819	2,193	40,287	147.5	3357.3	100	2.4	
児童図書	2,741	2,997	3,494	3,524	4,101	3,460	3,443	3,747	3,676	3,267	3,911	2,845	41,206	150.9	3,433.8	／	9.4	
合計	5,789	5,878	6,767	6,680	8,091	7,414	7,281	7,379	7,147	6,299	7,730	5,038	81,493	298.5	6,791.1	／	3.9	
開館日数	23	23	25	25	26	23	24	23	20	21	22	18	273	一般と児童との貸出割合 一般 49.4% 児童 50.6%				

表8　階層（職業）別に見た分類別貸出状況調（読書傾向調）　但し児童を除く

階層（職業） ＼ 分類（部門）別 貸出冊数・貸出割合		雑誌	0 総記	1 哲学宗教	2 歴史伝記	29 地理地誌	3 社会科学	4 自然科学	5 工業工学	59 家事家庭	6 産業交通	7 芸術スポーツ娯楽	8 語学	9 文学小説	貸出冊数計
中学生	貸出冊数	23	36	68	233	124	135	355	132	67	50	470	50	2,479	4,222
	貸出割合(%)	0.5	0.9	1.6	5.5	2.9	3.2	8.4	3.1	1.6	1.2	11.1	1.2	58.7	
学生（高校・大学）	貸出冊数	210	253	1,001	812	360	1,643	954	320	100	118	837	167	7,187	13,962
	貸出割合(%)	1.5	1.8	7.2	5.8	2.6	11.8	6.8	2.3	0.7	0.8	6.0	1.2	51.5	
勤人	貸出冊数	267	162	380	608	279	1,031	285	216	225	96	467	137	7,058	11,211
	貸出割合(%)	2.4	1.4	3.4	5.4	2.5	9.2	2.5	1.9	2.0	0.9	4.2	1.2	63.0	
主婦	貸出冊数	443	71	107	186	110	407	143	122	596	62	201	42	4,710	7,200
	貸出割合(%)	6.2	1.0	1.5	2.6	1.5	5.7	2.0	1.7	8.3	0.9	2.8	0.6	65.4	
自営（商業・農業等）	貸出冊数	21	17	19	40	22	31	13	10	11	7	16	3	320	530
	貸出割合(%)	4.0	3.2	3.6	7.5	4.1	5.9	2.4	1.9	2.1	1.3	3.0	0.6	60.4	
その他（受験生・自由業・その他）	貸出冊数	27	39	78	126	42	135	68	34	21	17	130	12	920	1,649
	貸出割合(%)	1.6	2.4	4.7	7.6	2.5	8.2	4.1	2.1	1.3	1.0	7.9	0.7	55.8	
無職	貸出冊数	90	18	46	124	37	68	77	22	41	34	102	10	844	1,513
	貸出割合(%)	5.9	1.2	3.0	8.2	2.4	4.5	5.1	1.5	2.7	2.2	6.7	0.7	55.8	
貸出冊数合計		1,081	596	1,699	2,129	974	3,450	1,895	856	1,061	384	2,223	421	23,518	40,287
分類別貸出割合(%)		2.7	1.5	4.2	5.3	2.4	8.6	4.7	2.1	2.6	1.0	5.5	1.0	58.4	

表9　分類（部門）別に見た階層（職業）別貸出状況調

階層（職業） ＼ 分類（部門）	雑誌	0 総記	1 哲学宗教	2 歴史伝記	29 地理地誌	3 社会科学	4 自然科学	5 工業工学	59 家事家庭	6 産業交通	7 芸術スポーツ娯楽	8 語学	9 文学小説	階層別貸出割合
中学生	2.1	6.0	4.0	10.9	12.7	3.9	18.7	15.4	6.3	13.0	21.1	12.0	10.5	10.5
学生	19.4	42.4	58.9	38.1	37.0	47.6	50.3	37.4	9.9	30.7	37.7	39.7	30.6	34.7
勤人	24.7	27.2	22.4	28.6	28.6	29.8	15.0	25.2	21.2	25.0	21.0	32.5	30.0	27.8
主婦	41.0	11.9	6.3	8.7	11.3	11.8	7.5	14.3	56.2	16.1	9.0	10.0	20.0	17.9
自営	2.0	2.9	1.1	1.9	2.3	0.9	0.7	1.2	1.0	1.8	0.7	0.7	1.4	1.3
その他	2.5	6.5	4.6	5.9	4.3	3.9	3.6	4.0	2.0	4.4	5.9	2.8	3.9	4.1
無職	8.3	3.0	2.7	5.8	3.8	2.0	4.1	2.6	4.0	8.9	4.6	2.3	3.6	3.7
分類別蔵書回転率(回)		0.7	1.7	1.6		1.4	1.8	2.5		1.2	2.1	0.9	3.6	2.4
分類別貸出冊数	1,081	596	1,699	2,129	974	3,450	1,895	856	1,061	384	2,223	421	23,518	40,287
分類別蔵書数		816	980	1,915		2,532	1,055	769		325	1,056	477	6,464	

表１０　昭和４３年度蔵書増加調

部門(分類)		前年度末蔵書数	増加内訳 購入	寄贈	移管(含復活)	保転	計	減少内訳 亡失	廃棄	保転	計	純増	昭和43年度末蔵書数	一般図書蔵書構成比	蔵書増加率
0	総記	691	103	18	1	4	126	1	0	0	1	125	816	5%	18%
1	哲学・宗教	715	259	10	0	1	270	3	1	1	5	265	980	6	37
2	歴史・地理	1,510	366	22	31	2	421	10	1	5	16	405	1,915	12	27
3	社会科学	1,826	697	89	10	4	800	18	3	73	94	706	2,532	15	39
4	自然科学	776	279	29	1	0	309	21	2	7	30	279	1,055	6	36
5	工業・家庭	461	213	26	1	76	316	6	1	1	8	308	769	5	67
6	産業・交通	270	50	6	1	0	57	2	0	0	2	55	325	2	20
7	芸術・スポーツ娯楽	819	233	13	1	2	249	10	1	1	12	237	1,056	6	29
8	語学	346	140	12	0	1	153	22	0	0	22	131	477	3	38
9	文学・小説	4,858	1,437	217	0	1	1,655	39	7	3	49	1,606	6,464	39	33
一般図書計		12,272	3,777	442	46	91	4,356	132	16	91	239	4,117	16,389		34
児童図書		2,588	1,072	746	0	0	1,818	6	8	0	14	1,804	4,392		70
合計		14,860	4,849	1,188	46	91	6,174	138	24	91	253	5,921	20,781		40

備考　1. 増加内訳　購入７９％　寄贈１９％　その他２％
　　2. 年度末蔵書内訳　一般図書７９％　児童図書２１％

表１１　館外奉仕活動一覧

月	日	行事名	参加者	場所	内容	備考
4	2	春休み子ども会	120	神代団地集会所	映画会	
	16	府中・日野市立図書館見学	23	府中・日野市立図書館	神代団地、国領母の会、地域文庫結成のための見学会	
	18	日本針布主婦の会読書会	20	針布クラブ	大江健三郎「死者の奢り」	講師　荻原館長
	27	国領母の会こん談会	8	加納氏宅（国領母の会）	地域文庫結成と運営管理について	
5	13	憲法記念講演会	53	公民館	くらしと憲法	講師　戒能通孝（公民館と共催）
	16	講演会市立図書館と学校図書館	70	図書館	公共図書館と学校図書館との結びつき	講師　小河内芳子氏（児童図書研究家）
	23	日本針布読書会	16	針布クラブ	戦後の作家について	講師　荻原館長
	24	古典講座開設記念講演会	130	公民館	古典への開眼	講師　山岸徳平氏(実践女子大学長）（公民館と共催）
	25	読書講演会	48	〃	絵本のはなし	講師　稲庭桂子氏（童心社編集長）
	31	富士見台小ＰＴＡとのこん談会	9	図書館	ＰＴＡ文庫の普及発展について	
6	3	講演会図書の整理	10	仙川保育園	幼稚園・保育園所蔵図書の整理保存について	
	14	婦民クラブ読書会	14	図書館	「ケンはへっちゃら」	結成後第１回開催
	17	図書館見学	85	〃	施設見学の一環として来館	１７日～２１日まで実施
	19	３年生集団読書指導	48	深大寺小学校	映画と活字のとがい本の内容紹介	講師　代田　昇氏（都立教育研究所）
	20	日本針布読書会	12	針布クラブ	森鷗外の人と作品	講師　荻原館長
	26	３年生集団読書指導	48	上ノ原小学校	映像と活字のちがい本の内容紹介	講師　代田　昇氏
	29	古典文学講座	104	公民館	古典物語の概念と特性	講師　鈴木一雄氏（教育大助教授）
		団体貸出し		神代団地老人クラブ	６月から左記の老人クラブへ図書の団体貸出しを開始	

月	日	行事名	参加者	場所	内容	備考
7	2	3年生集団読書指導	45	第1小学校	映像と活字について、読書の大切なこと、本の内容紹介	講師 代田 昇氏（都立教育研究所）
	11	日本針布読書会	8	針布クラブ	高瀬舟	講師 萩原図書館長
	18	古典文学講座	83	公民館	創作物語（竹取・宇津保・落窪物語）	講師 鈴木一雄氏（教育大助教授）
		夏休み子ども文庫開設			800冊の図書を6団体へ貸出し	
8	2	夏休み子ども会	160	滝坂小学校	滝坂小ＰＴＡ援助 映画会	
	4	国領バス文庫開館		国領町155児童公園内	国領町母の会による地域子ども文庫	
	16	夏休み子ども会	550	公民館	映画と本のおはなし	講師 代田 昇氏（都立教育研究所）
	24	夏休み子ども会	55	国領バス文庫	国領母の会バス文庫援助 映画会	
	31	古典文学講座	96	公民館	伊勢・大和物語	講師 鈴木一雄氏（教育大助教授）
	10	館報第1号発行			調布市立中央図書館報これより逐次発行	
9	9	婦民クラブ読書会	18	図書館	親子読書の方法について	
	16	簡易製本講習会	51	〃	簡易製本の講義と実技	講師 岩崎営業部長（木原正三堂）
	21	親子読書講演会	53	若葉小学校	親子読書のすすめ方	講師 斎藤尚吾氏（親子読書センター代表）
	28	古典文学講座	80	公民館	紀行文学について	講師 鈴木一雄氏（教育大助教授）
10	3	時局講演会	24	図書館	現代の学生問題 学園紛争の意味するもの	講師 荒井正大（ＮＥＴニュース解説者）
	7	親子読書講演会	62	滝坂小学校	親子読書のすすめ方	講師 斎藤尚吾氏（親子読書センター代表）
	14	3年生集団読書指導	39	〃	映像と活字について 本の内容紹介	講師 代田 昇氏（都立教育研究所）
	15	〃	38	第1小学校	〃	〃
	28	〃	32	深大寺小学校	〃	〃
	24	読書週間講演会	30	公民館	私の作品について	講師 松谷みよ子氏（児童文学作家）

11	7	3年生集団読書指導	38	緑ケ丘小学校	映像と活字について 本の内容紹介	講師 代田 昇氏（都立教育研究所）
		団体貸出し		市内読書会・文庫5団体	日比谷図書館より2,000冊の児童図書を長期借受け市内の文庫読書会へ団体貸出しをおこなう。	
	8	〃	39	上ノ原小学校	〃	〃
	8	婦民クラブ読書会	21	図書館	創作民話「八郎」	
	10	読書講演会	50	神代団地集会所	「チョコレート戦争」と私	講師 大石 寞氏（児童文学作家）
	14	野川小ＰＴＡとのこん談会	59	野川小学校	公共図書館とＰＴＡ活動について 他	
	18	若葉小親子読書会	28	若葉小	親子読書会結成について	講師 萩原館長
	21	日本針布読書会	17	日本針布クラブ	森鷗外の作品について	〃
	24	文学散歩	56	埼玉県平林寺	武蔵野の面影を訪ねて	講師 野田宇太郎氏（詩人 評論家）
	28	古典文学講座	60	公民館	源氏物語について	講師 鈴木一雄氏（教育大助教授）
	29	読書講演会	60	〃	児童文学の世界	講師 関 英雄氏（児童文学者） 増田千子・代田昇（都立教育研究所）
12	5	3年生集団読書指導	40	野川小学校	映像と活字、読書の必要性 本の内容紹介	講師 代田 昇氏（都立教育研究所）
	9	学校図書室と市立図書館とのこん談会	16	第1小学校	集団読書指導の成果と今後の問題	
	13	婦民クラブ読書会	15	図書館	日本の民話について	
	16	団体貸出し		市内5地域文庫	日比谷図書館より1,000冊の児童図書を長期借受け地域文庫に団体貸出し	
	19	神代団地親子読書会	12	神代団地集会所	読み聞かせについて	
	21	古典文学講座	87	公民館	万葉集について	講師 鈴木一雄氏（教育大助教授）
44 1	13	2年生読書指導	35	北ノ台小学校	「モモタロウ」の読みくらべ	
	16	サークルこん談会	15	図書館	本を読もう会、綴り方サークルの今後の活動について	
	16	婦民クラブ読書会	11	〃	「かにむかし」読みくらべ	

月	日	行事名	参加者	場所	内容	備考
1	19	第二小学校読書会	14	第二小学校	「名作にまなぶ生き方」輪読と話し合い	
	20	本多文庫発足		図書館	西つつじヶ丘本多ミヨ氏の寄附による児童図書600冊で発足	
	23	本を読もう会	9	婦人会館	夏目漱石「行人」について	
	〃	日本針布読書会	12	針布クラブ	森鴎外の短編	
	24	子ども読書会（1・2年生）	38	公民館	「こぶとり」読み聞かせ	以後学年別読書会を毎月1回おこなう。
	28	〃（3・4年生）	39	〃	「やまんばのにしき」読み聞かせ「ごろはちだいみょうじん」	
	30	〃（5・6年生）	13	〃	「八郎」他読み聞かせ	
	31	市立小学校ＰＴＡとのこん談会	43	〃	ＰＴＡと図書館との読書活動に対する協力について	
2	3	図書館見学	120	図書館	図書館の役割、利用方法、現在の利用状況について	桐朋学園小学校児童
	3	3年生集団読書指導	40	第一小学校	映像と読書、本の紹介スライド上映	講師　代田　昇氏（都立教育研究所）
	4	3年生集団読書指導	40	滝坂小学校	映像と読書についてスライド上映　本の紹介	講師　代田　昇氏（都立教育研究所）
	6	入間町親子読書会	8	鈴木宅（入間町2−20）	親子読書の目的と意義、活動の方法について	
	7	入間町婦人読書会	11	尾中宅（入間町1−30）	「山の音」の鑑賞	
	8	時局講演会	73	公民館	文化大革命と中国の将来	講師　江頭数馬氏（毎日新聞外信副部長）
	13	3年生集団読書指導	40	野川小学校	映像と読書、本の紹介による読書の動機づけ	講師　代田　昇氏（都立教育研究所）
	15	子ども読書会（5・6年生）	12	公民館	「一ふさのぶどう」スライドと本による鑑賞	
	〃	綴り方サークル	7	婦人会館	作文集による自作の朗読と合評	講師　菅原克巳（詩人、新日本文学会）
	18	子ども読書会（3・4年生）	50	公民館	「ウグイスと王さま」スライドと本による鑑賞	
	〃	上ノ原小ＰＴＡとのこん談会	18	上ノ原小学校	読み聞かせの意義と目的	

	20	日本針布読書会	14	針布クラブ	森鴎外の人と作品について	
	21	入間町親子読書会	11	鈴木宅（入間町2−20）	児童図書について、読書の動機づけと読み聞かせについて	
	25	子ども読書会（1・2年生）	70	公民館	「ひこいちとんちばなし」絵本の読み聞かせとスライド上映	
3	1	子どもの本の選び方与え方講座（第1日目）	294	公民館	民話・神話について 見方・与え方について 歴史読物の紹介	講師　来栖良夫（児童文学者） 〃　波木井やよい（日本子どもの本研究会） 〃　代田　昇　〃 〃　茂木茂雄　〃
	3	図書館見学	19	図書館	図書館のあゆみと現況 図書の整理・分類・利用方法	滝坂小学校図書部児童
	7	子ども読書会（3・4年生）	41	公民館	「一つのさやからでた五つのエンドウ豆」輪読と鑑賞（アンデルセン）	
	7	入間町親子読書会	9	丸山宅（入間町1−20）	「竜の子太郎」について	
	8	子どもの本の選び方与え方講座（第2日目）	250	公民館	子どもの本の移り変わり 科学読み物紹介	講師鳥越　信（早稲田大学助教授） 〃〃滝井いち（日本子どもの本研究会） 〃　山花郁子（調布市立図書館員） 〃　吉村証子（津田塾大学講師）
	10	図書館見学	13	図書館	図書館のあゆみと活動状況 中学生の利用状況について	第4中学校ＰＴＡ
	11	〃	10	〃	〃	〃
	13	子ども読書会（5・6年生）	16	公民館	私の好きな本について	
	15	子どもの本の選び方与え方講座（第3日目）	129	〃	子どもの文学の評価 子どもに読ませたい児童文学 子どもの読書と学力	講師古田足日（児童文学者） 〃　興梠照（日本子どもの本研究会） 〃　那須田稔（児童文学者）他
	20	子ども読書会（1・2年生）	38	公民館	加古里子「かわ」読み聞かせと川と生活について話し合い	

表12　館外活動のまとめ

館外活動の区分	年間実施回数	年間参加延人員	備考
読書会関係	21回	287名	針布読書会、婦民読書会、神代団地親子読書会、本を読もう会 綴り方サークル、入間町婦人読書会、入間町親子読書会
講座・講演会関係	21回	1,892名	時局、読書講演会、古典講座、子どもの本の与え方講座、 文学散歩他、　教養講演会
集団読書指導	12回	483名	深大寺、上ノ原、第1、滝坂、緑ケ丘、野川、北ノ台、各小学校
子ども読書会	9回	317名	1～2年、3～4年、5～6年別各読書会
子ども会	4回	885名	春休み・夏休み子ども会、他地域子ども会
読書啓蒙普及こん談会	7回	168名	小学校PTA、地域グループ
その他の啓蒙普及活動	9回	370名	製本講習、整理講習会、図書館見学他
計	83回	4,402名	